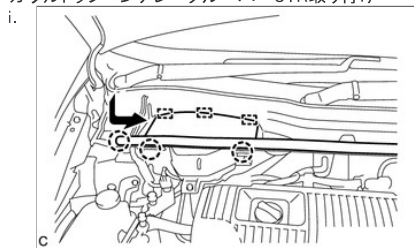


- c. ダイアグノーシスコード消去
 参考：
 要領はブレーキ>ブレーキコントロール>電子制御ブレーキシステム>ダイアグコード点検/消去参照

d. SST(TaSCAN)をOFFし、IG OFFする。

e. ブレーキフルード漏れ点検

f. カウルトップベンチレーターバーCTR取り付け



ツメ2箇所およびガイド3箇所をかん合させ、カウルトップベンチレーターバーCTRを取り付ける。

ii. フードトウカウルトップシールずらし、ツメをかん合させる。

3.ブレーキフルード取替 (SST不使用時)

注意：

- 下記手順を行うことで、SST(TaSCAN)を使用せずにブレーキ制御禁止モードへ移行することができる。
- ブレーキ制御禁止モードにより、SST(TaSCAN)を使用せずにブレーキフルード取替が可能である。
- ブレーキ制御禁止モードでのフレキシブルホース交換時やキャリパー交換時のエア抜き作業は行わない。
- ブレーキ制御禁止モードへ移行すると、電子制御ブレーキウォーニングランプが点滅する。
- ブレーキフルード取替作業は、電子制御ブレーキウォーニングランプの点滅を確認しながら行うこと。
- 以下のいずれかの条件を満たすと、ブレーキ制御禁止モードが解除され、電子制御ブレーキウォーニングランプが消灯する。これにより、ダイアグノーシスコードが記憶されることがあるので、フルード交換が終了するまでブレーキ制御禁止モードを解除しない。

シフトポジションP以外
READY ON
パーキングブレーキ解除
IG OFF
車速0km/h以外

- ブレーキ制御禁止モード移行中にブレーキディスクロータを回転させない。
- ブレーキフルード取替の際、ポンプモータ駆動を連続100秒以上行うとダイアグノーシスコードが記憶されることがあるので、100秒以内にペダルを離してポンプモータ駆動を一旦停止させる。
- フルード取替作業中、電子制御ブレーキウォーニングランプ点滅およびブザーが吹鳴するが異常ではない。
- SST(TaSCAN)を使用せずにブレーキフルード取替作業を行う場合は、リザーバ注入口にフルード缶を立てても良い。*

参考：

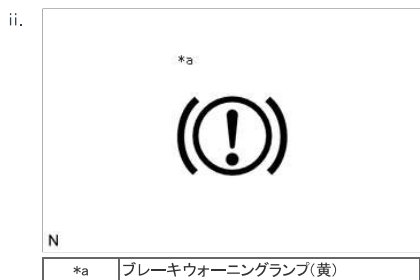
* ブリーダプラグを閉めたまま複数回ブレーキペダルを踏むと、ブレーキフルードがリザーバから溢れる可能性がある。

a. タイヤ取りはずし

b. ブレーキ制御禁止モード移行

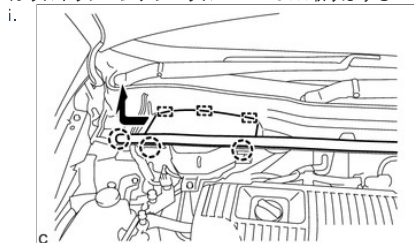
i. 以下の手順を、1分以内に行う。

- パーキングブレーキが作用していることを確認し、シフトポジションPでIG ONする。
- シフトポジションNで、ブレーキペダルの踏み込み・開放を5秒以内に8回以上行う。
- シフトポジションPで、ブレーキペダルの踏み込み・開放を5秒以内に8回以上行う。
- シフトポジションNで、ブレーキペダルの踏み込み・開放を5秒以内に8回以上行う。
- シフトポジションPにする。



電子制御ブレーキウォーニングランプが点滅することを確認する。

c. カウルトップベンチレーターバーCTR取りはずし



ツメのかん合をずらし、フードトウカウルトップシールをずらす。

ii. ツメ2箇所およびガイド3箇所のかん合をはずし、カウルトップベンチレーターバーCTRを取りはずす。